

「気仙沼図書館・気仙沼児童センター」

ーできるまでの経緯 + 1年を振り返ってー

(第13回 キッズデザイン賞 応募資料)

プレゼンテーションシート

1. 作品の概要
2. 課題の着眼点
3. 課題へのアプローチ
4. 実績・ユーザーの評価・エビデンス

追加資料

1. 図書館と児童センターの垣根を越えてー 1
2. 図書館と児童センターの垣根を越えてー 2
3. ユドヨノ友好こども館（こどもとしょかん）をより魅力的にー 1
4. ユドヨノ友好こども館（こどもとしょかん）をより魅力的にー 2
5. 楽しく迎える雰囲気づくり
6. 建築が完成する前段階のワークショップー 1
7. 建築が完成する前段階のワークショップー 2
8. 開館1年の記録からー 1
9. 開館1年の記録からー 2
10. 開館1年の記録からー 3

① 作品の概要



気仙沼図書館・児童図書エリア（児童センター諸室とつながっている）



東側正面外観（震災前の旧館と同じ向きに入口がある）



南側外観（小学校からみる）

2011年を境に、場の記憶を様変わりさせない

敷地は高台にあり、大震災で損傷を受けた旧図書館は、港から桜の樹林越しに遠望できた。新館はそのシルエットをほぼ再現している。エントランスの向きも同じ。入ってすぐ2階へ上がる階段が眼に入るのも、書架の間から桜が見える景色も継承している。地続きの小学校から見ると、新館がこの地の守り神のような4本のスズカケノキに寄り添う形をしているのも良くわかる。

祖父母に手を引かれて来る子どもたちは、いずれ自分の子どもを連れてくるだろう。そして孫に囲まれ訪れるようになる…。

その子にとって、5代にも渡る家族の思い出、あるいは関わりのあった人々との記憶を辿れる場所、気仙沼に住み続ける愛着を感じとれる場所…。そうなることが、この建築の使命である。



歴史を尊重すると同時に、未来も志向する

小、中学校と地続きである立地は貴重である。スズカケノキと共存するように張り出た2つのウィングは「森のひろば」をつくりつつ、小学校に手招きをしているように見える。中学校とは桜並木でつながっている。そうしてやってくる気仙沼の将来を託す子どもたちのための領域は1階を中心に展開させている。「図書館」と新たに加わる「児童センター」の境はあいまいに、回遊性を持たせている。また、事務室も一体化しているので協働は日々深化している。



気仙沼図書館・気仙沼児童センター

住所：宮城県気仙沼市笹が陣3番30号

敷地面積：7,664.57㎡／建築面積：1,874.95㎡／延べ面積：3,221.40㎡

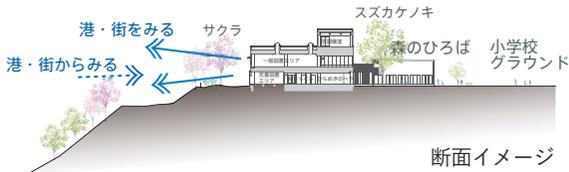
地上3階・RC造一部S造／2018年3月31日開館

② 課題の着眼点

2011年被災図書館の復興にあたり、
つながりを再編・強化する

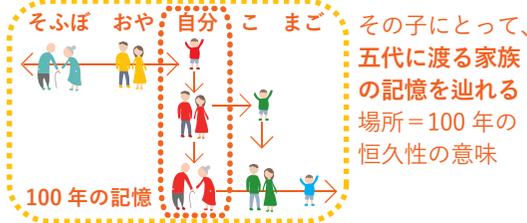
1. 桜越しの遠望 海・港との「つながり」

港周辺の都市景観は、2011年を境に変貌した。旧図書館は高台にあったものの、強震により建て替える余儀なくされた。復興にあたり都市景観＝都市の“記憶”を様変わりさせないように。



2. 世代を越えた「つながり」

単独館として100年、現敷地に移転して50年の歴史ある図書館。祖父母や親の世代の“記憶”がつながるように。



3. 小・中学校との境界のない「つながり」

全国的に見ても、図書館が小中学校と境界なく地続きの例はめずらしい。それぞれの学校とつながっているように見える“構え”に。

(P.1 南側外観、P.4 テラスで語りあう写真参照)

4. 樹木の息づかいを感じる環境 自然との「つながり」

4本のスズカケノキは、祖父母の時代から子どもたちを見守ってきた。この地の守り神のような大樹を大切に、寄り添う“構え”に。

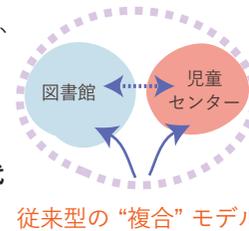


その子にとって、五代にも渡る家族の思い出を辿れる“場所”をつくる

「図書館」に「児童センター」を複合させるにあたり、子ども目線を大切に、境をなくす

1. 1階に子どもエリアを集約

「図書館」児童図書エリアと「児童センター」の融通無碍なつながりが、子どもや子育て世代の自由な使い方を促すように(管理区分可能)。

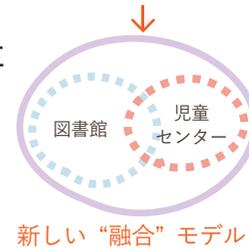


2. 事務室を一体に

2つの組織が一室に同居することにより、相互理解を深め共同企画を促すように。

3. 2階にも上がりやすく

「図書館」2階への心理的バリアを和らげ、子どもたちの一般図書デビューを促すように。



2階への階段



図書館・桜が目の前にある閲覧席



図書館・児童図書エリアから児童センター・おやこのへやがみえる



図書館・おはなしのへや (児童センターからも入れる)



児童センター・おやこのへや (乳幼児と保護者の遊び・ふれあいスペース)



児童センター・みんなのへや (多目的に使える広いスペース)

③ 課題へのアプローチ

「図書館」と「児童センター」の垣根を越えた、子どもの日常拠点として

ソフトとハードの緊密な連携

1. 設計から開館まで一貫した協働

ソフト（運営・市）とハード（建築・設計事務所）の繰り返しの打ち合わせにより、求める機能性と使いこなせる空間性能の整合を実現

2. 組織を越えた子どもへの思いの高まり

図書館（教育委員会）と児童センター（保健福祉部）の組織を越えた子ども重視の相互理解により、事務室の一体化、ぎやらりーなどの共同利用、協働企画の多様展開などを実現

3. 建築構成への反映

1) 回遊性とアルコーブ
行き止まりのない空間構成。そこかしこに隠れ場所が点在（死角ではない）

2) 家族で使える家具の工夫
大人も座れる座面の広い椅子、ソファなど

3) 児童書架の工夫
「えほん」「ものがたり」はジャングルジムのよう
に。「ちしき」は大人への
移行を促す一般図書の類
似形に

4) 一般トイレ+子どもトイレ、
授乳室の充実
子育て世代の使いやすさ

5) アトピー性皮膚疾患への配慮
清潔を保てる床材（天然リノリ
ウム）の採用など

6) 2階（一般図書）へと誘う階段



上：書架のアルコーブ
中：ものがたり架
下：ちしき架



小学生～中高生 日常の風景



窓の外の桜の新緑を感じながら、友と学ぶ中高生



放課後、気仙沼小学校からランドセルを背負った
ままた館できる「特別」ルールが実現している



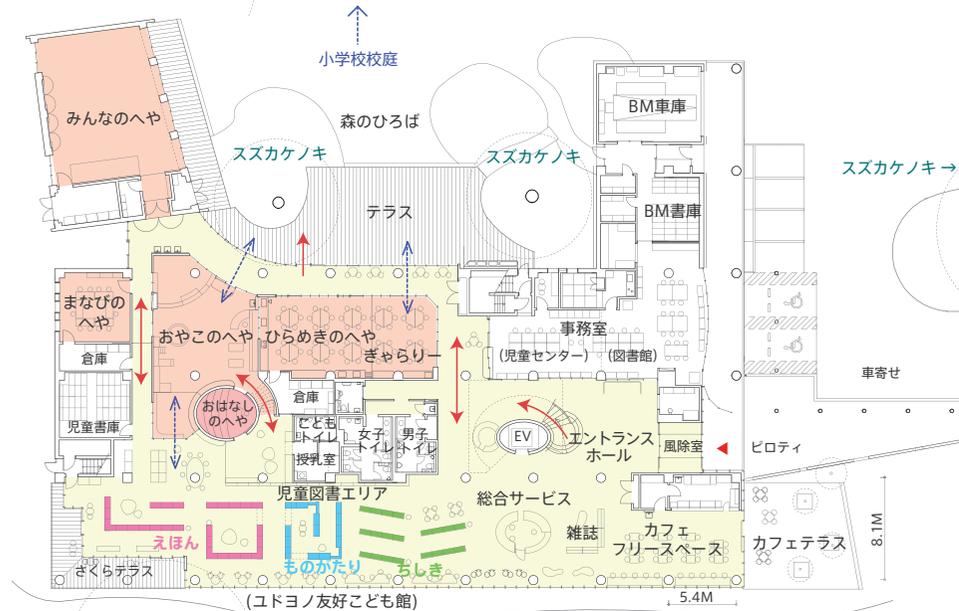
小学高学年は2階Y A（青少年）に向かう傾向がある



小学低学年は1階で宿題の後、皆で遊ぶことが多い



2階平面図 S=1:600



1階平面図 S=1:600

利用者動線
見通し(視線の抜け)



④ 実績・ユーザーの評価・エビデンス

進化する活動、高まる市民評価

「三陸新報」2019.4.10 朝刊から

開館1年 - 12万人超が来館

共催イベントが奏功／世代間交流にも役割

123,210 人来館 (2018.3.31 ~ 2019.3.31)

旧図書館時代の年間約 5 万人の倍以上

児童センターの利用者 38,306 人：旧古町児童館時代の年間 7 ~ 8000 人の約 5 倍

■図書館・吉田睦美館長

「従来の図書館のあり方にこだわらず、児童センターや雑誌スポンサーの企業とコラボしながらコンテンツづくりに今後も取り組んでいく。並行して、市民が読書の幅をひろげられるような展示・企画も考えていきたい」

■児童センター・清野由美子館長

「以前と同じく中心は乳幼児や小学生だが、図書館と一緒にすることで中高生の利用が増え、他校の友人をつくる場にもなっている。共催イベントで訪れた後に継続して利用してくれる親子も多く、相乗効果を実感している」

■2018年度 行事・活動実施記録

(※は新聞記事参照)

◎おはなし会

対象を、①赤ちゃんとおはなし会②④幼児から小学校低学年③小学生⑤家族⑥小学1~4年生、などに分けて実施(累計627人)

①おはなしたまご／②おはなし広場／③おはなしタイム／④おがみあそび／⑤納涼おばけ話会※／⑥ジョナサン&ディランと英語で遊ぼう※

◎実験工作教室・その他工作教室等

『めでタイカードをつくろう!』※ 『つくってあそぼう!プロペラ付きペットボトルカー』※など。科学読物研究会、気仙沼風の会等とのコラボを含めて8回実施(累計132人)

◎中高生に贈る図書館おすすめの50冊(通年)

職員が中高生に読んでもらいたい本50冊を推薦。職員の紹介文を載せた冊子を発行

◎スタンプラリーの実施(通年)

赤ちゃんから小学6年生まで対象となる本のリストを作成し、20冊読み終わった子どもに賞状またはメダル贈呈(中高生は50選の本が対象で、10冊で賞状)

◎読書活動支援

『市内小中高等学校と支援学校の図書担当者会議』『読書活動支援として出前おはなし会を実施。保育所の世代間交流のイベントとして』(累計141人)

◎その他の企画行事(職員または講師を招いて)

①世界に一つだけの磁石をつくろう!／②スイセンおかえり!ワークショップ／③みんなで絵本を作ろう など20件実施(累計267人)

◎学校との連携など

①職場体験(累計10校26人)／②市内学校行事の見学(累計670人)／③ボランティア教室

◎児童センター定期行事

①びよびよあそびの日(0歳児対象)／②とことこあそびの日(1,2歳児対象)／③あつまれ!じどうかんっ子(あそびうたコンサートなど)／④その月生まれのお誕生会など(入館表記累計38,306人)



子育て世代のふれあいの場としても重要



小学校の校庭と地続きのテラスで語りあう

乳幼児から小中高生、大人も交えて魅力と笑顔が待っている居場所が進化している



納涼おばけ話会



ジョナサン&ディランと英語で遊ぼう



磁石を使って、めでタイカードをつくろう!



つくってあそぼう!プロペラ付きペットボトルカー



おじいちゃんに褒めてもらう

①



②



③

●世界に一つだけの磁石をつくろう!

①~③自宅用と館内用をつくる。来るたびに自分の作品が使われているのを見るのがうれしい!

●スイセン移植+お帰りワークショップ

④⑤2016.5月 隣接小学校3年生が、工事前に敷地内のスイセンを疎開移植。あわせて虫を採集し観察。生態学者から土の大切さ、食物連鎖を学ぶ
⑥⑦2018.6月 5年生になって図書館の庭にそれぞれ場所を選んでスイセンの球根を植え戻した



④



⑤



⑥



⑦



3年に渡る喜びの瞬間

⑧

⑧2019.1月 芽が出てきたことを確認。割箸に自分の名前が書いてあるので場所がわかる

図書館と児童センターの垣根を越えて：子どもと、子どもの幸せを願う大人たちの日常拠点

図書館と児童センターの境をあいまいに、利用者の自由な使い方を促す。事務室も一つにまとめ、協働しやすい環境を整備



小学校から 森のひろば越しに 室内がみえる



森のひろばにて ミニマルシェ



エントランスホールから コドヨノ友好子ども館 (こどもとしゃかん) へ



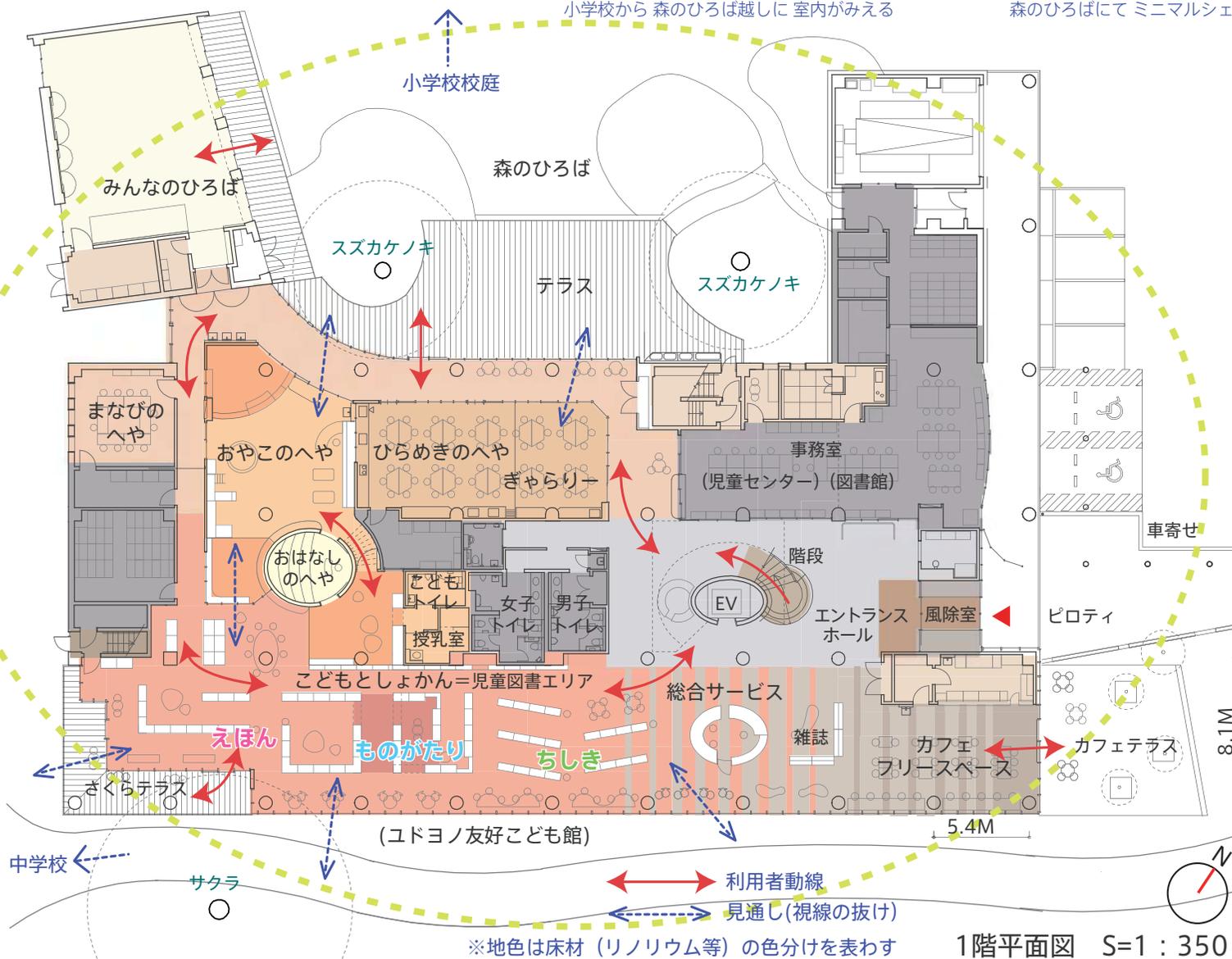
「ちしき」の本は2階への階段に近く



「えほん」を楽しむ子どもたち



「おやこのへや」でみんなと遊ぶ



図書館と児童センターの垣根を越えて：“学び”と“遊び”が溶けあうところ



ひらめきのへや・ぎやらりー：時間帯により違いのある年齢層に寄り添う。企画のない時はフリース



みんなのひろば：体を動かせる多目的スペース



2階一般図書エリア：中高生の学習を支える場としての利用は多い

おやこのへや・ひらめきのへや：乳幼児や保護者が安心して過ごせる



隣の気仙沼小学校からランドセルを背負ったまま来館できる“特別”ルールが実現している。高学年はまずは2階で大人に交じって宿題をする、低学年は1階で宿題の後、皆で遊ぶことが多い

図書館と一緒に
なったことで、
児童センターの中高
生利用が増え、他
校に友達ができる
場にもなっている



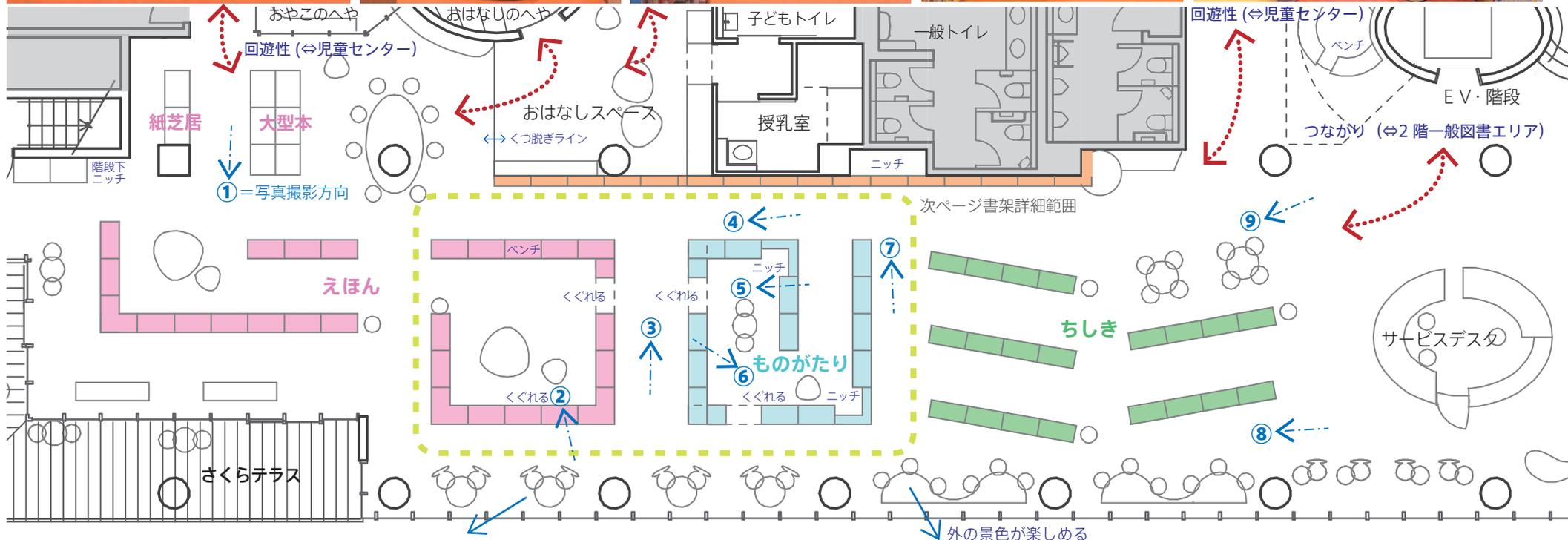
2階「学習室」や「気仙沼をかたどったデスク」も学びあう場

図書館と児童センターの持ち味が融合され、
“学び”と“遊び”のあり方が多様になってきた。
これまで児童センターに馴染みのなかった大人に、
関心を深めるきっかけを提供するなど、
市民への周知が“図書館ルート”と“児童センター
ルート”の2倍になって、それぞれの
利用者層が交じり合う成果もみえてきた。



まなびのへや：中高生利用の日常拠点

ユドヨノ友好子ども館（こどもとしょかん）をより魅力的に：えほん・ものがたり・ちしき… 利用特性に応じた書架と座のデザイン



ユドヨノ友好子ども館（こどもとしゃかん）をより魅力的に：本との出会いをデザインする——ソフトとハードを両輪として

3つに大別される資料群の「利用のしやすさと魅せ方」のデザイン

ちしき：2階の一般図書エリアへの階段に近い位置

書架や座席のスタイルも似せて、一般図書デビューを促す幅広い知の体系がわかりやすい本の並び
大人も使える内容の本が増えているので、大人も近づきやすい位置と魅せ方の工夫

ものがたり：隠れ家的な空間で、本との出会いを味わえる

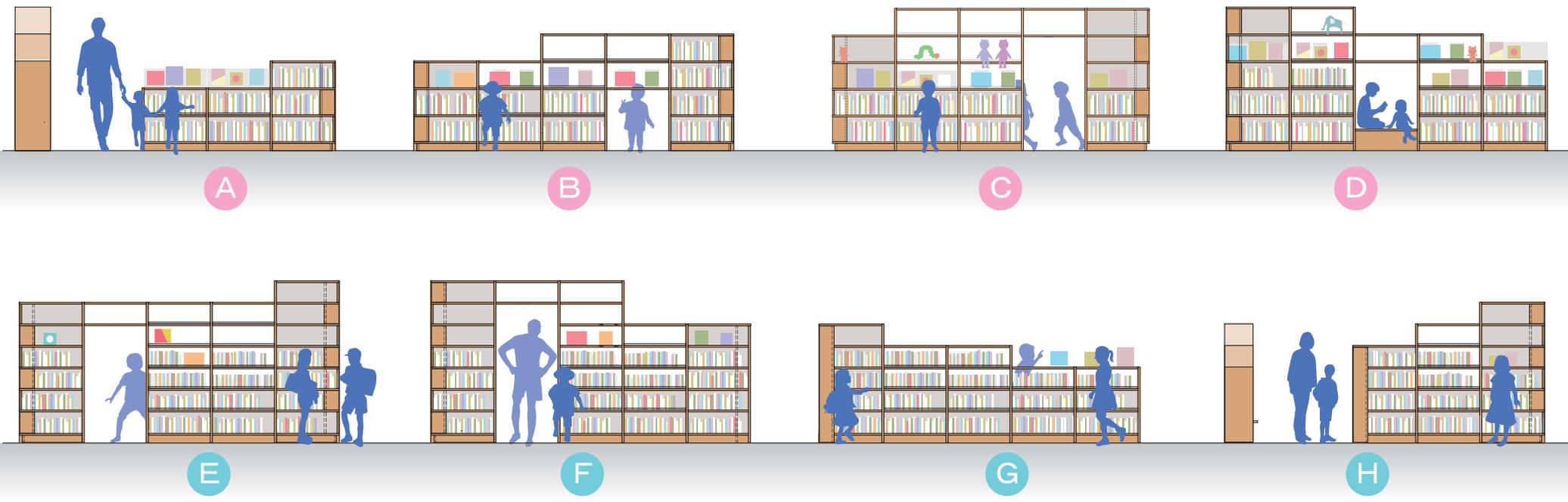
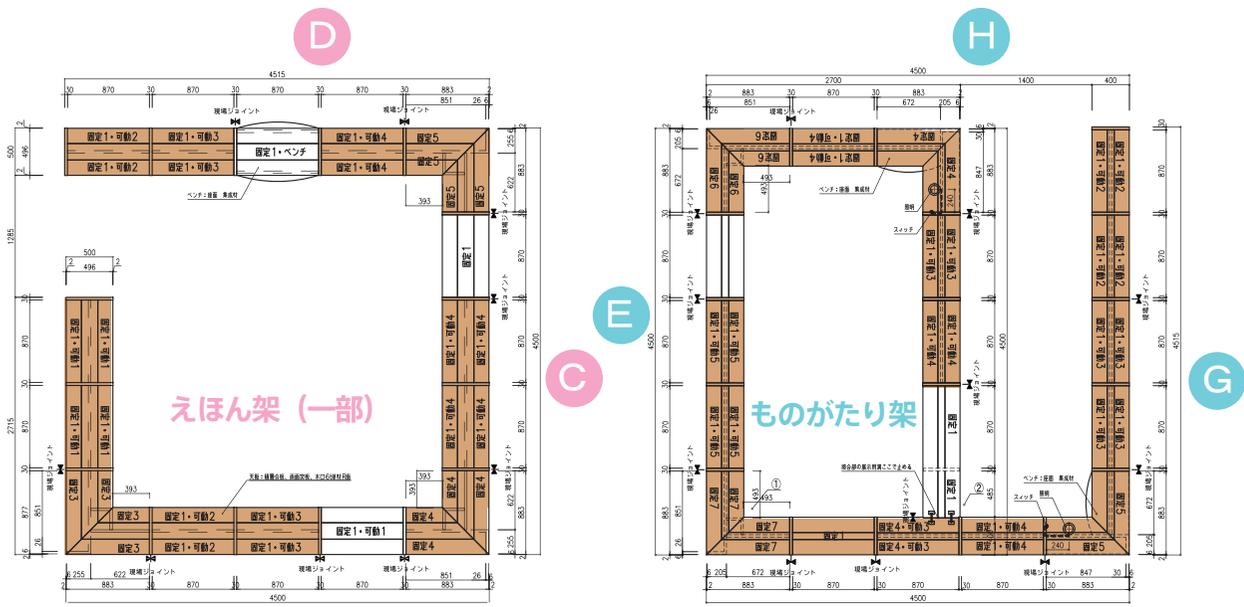
友だちと入り込んで一緒に本を読みたくなるニッチ（照明は自分で点滅）が点在

えほん：保護者とその場で横並びできる石ころのようなソファ（3種類の大きさ）が傍らに

大型絵本、紙芝居など、特殊サイズの資料も横並びで楽しめる大型デスク

おはなしのへや、児童センター・おやこのへやにも近く
子どもトイレ、授乳室も用意

※ユドヨノ友好子ども館（こどもとしゃかん＝児童図書エリア）は、震災復興に際しインドネシア政府からの大きな支援を受けて整備されました。



楽しく迎える雰囲気づくり： 基盤サイン+できたて作品+みんなの笑顔 の 合わせ技

基盤サイン・オリジナルピクトグラム

おやこのへや 

ぎやらりー 

授乳室 

まなびのへや 

みんなのひろば 

こどもトイレ 

ひらめきのへや 

おはなしのへや 

photo spot 

他の利用者が写り込まないように撮影してください



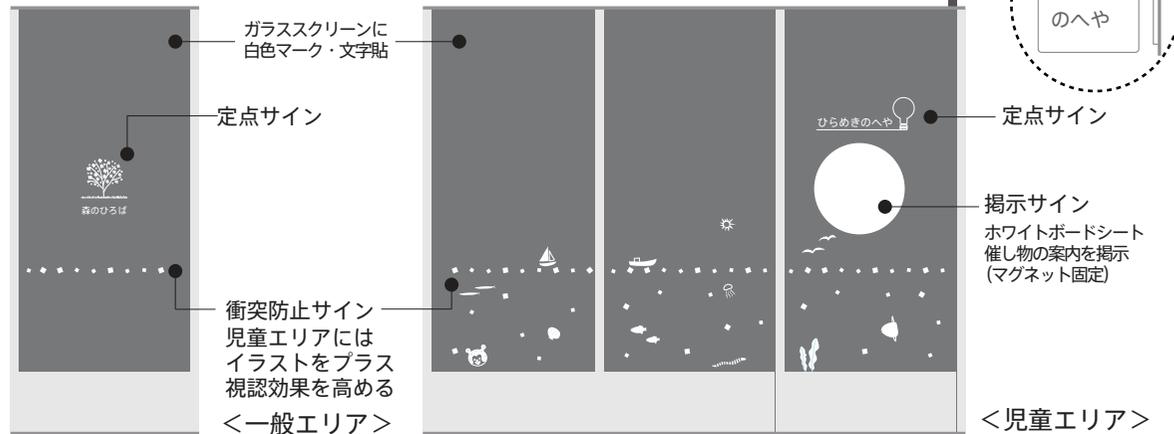
森のひろば カフェテラス さくらテラス



履き替えサイン：人も獣も鳥もみんないっしょに



基盤サイン・ガラススクリーンをベースとした個所



「できたて作品」がお出迎え



「笑顔」でお出迎え



保護者のふれあいの場としても



建築が完成する前段階のワークショップ： 設計に反映させるため、および開館後の運営のシミュレーション- 1

表土保全のワークショップ

開催日時：平成28年5月25日(水) 2~3時間目

開催場所：建設地+気仙沼小学校理科教室

企画進行：気仙沼市教育委員会/気仙沼図書館/気仙沼小学校
岡田新一設計事務所(建築) /背景計画研究所
(ランドスケープ) /地域自然財産研究所(生態学)

出席：気仙沼小学校3年生32名

目的：設計にあたり、移植できない大樹(スズカケノキ、サクラ等)は保存しつつ外形を決める、移植可能な樹は、新館建設後に帰れるまで、隣の小学校の校庭隅に仮植する。土にはその場所ならではの個性がある。かけがえのない宝物(栄養の宝庫)として表土を保存し、移植後に樹元に戻す。
①敷地内のスイセンの移植+②足もとの自然を見つめる体験+③表土保全の意味のおはなしを通して、何かに気づききっかけを期待するワークショップ



虫を顕微鏡でみる



スイセンの移植



生き物の観察

「生態学」表土保全の意味のはなし

「スイセン・おかえり！」ワークショップ

開催日時：平成28年6月1日(金) 2~3時間目

開催場所：ひらめきのへや、小学校校庭

企画進行：気仙沼市教育委員会
気仙沼図書館/気仙沼小学校
岡田新一設計事務所(建築)
背景計画研究所

出席：気仙沼小学校5年生32名

目的：3年生の時に掘り起して仮植したスイセンを、5年生になって完成した「図書館・児童センター」の庭の一部に、どの場所がいいかを考えながら植え戻す。自分たちの場所としての認識を高めると同時に、自然に対する畏敬や愛情を育み、この庭を親しみを持って育てていくことにつなげていきたい



完成した図書館でスイセンを調べた後、2年ぶりに植え戻す作業。TV局も取材に



※建築の周辺に根付き、今春鮮やかな黄色のスイセンの里のイメージが復活した

気仙沼の<色>って、どんないろ？

開催日時：平成29年3月18日(土) 14:00~16:30

開催場所：気仙沼中央公民館、会議室2・3

主催：気仙沼市教育委員会/気仙沼図書館/保健福祉部子ども家庭課
岡田新一設計事務所(協力：Ristex委託研究立教大学河野哲也研究室)

出席：幼児~大人34名(男8、女26)

- 目的 1) 市民がなじみに感じている「色」の傾向を知り、建設中の図書館・児童センターの内外装「色彩計画」の参考とする
- 2) 「色」への関心を高めるきっかけを提供する。「色」の美しさ、不思議さをより深く感じることができれば、日々の暮らしはさらに楽しくなるはず



※青系に加え緑系が多く、無彩色はほぼ無い。ベタ色からではなく風景写真からの採集、光を意識している作品が多いのも気仙沼市民の特徴

世界にひとつだけの「磁石」をつくろう！

開催日時：平成30年3月31日(土) 13:00~16:00

開催場所：気仙沼図書館・児童センター ひらめきのへや

主催：気仙沼図書館・児童センター+岡田新一設計事務所

- 目的：磁石シートをはさみで自由な形(星形など)に切り抜き、油性マーカーで絵を添えて、世界にひとつしかない磁石をつくる。おうち用とともに館内用もつくる。
- 自分で作った磁石が館内で実際に活かされているのを見た時、子どもたちはきっと喜びを感じるだろう、そう願うワークショップ



※開館日に子どもたちが手づくりしてくれた磁石は、今でも館内掲示で輝いている

建築が完成する前段階のワークショップ：開館後の運営のシミュレーション-2 「気仙沼てつがく探検隊」 ※令和元年9月1,2日 第7回開催予定

図書館のアクティブな活用をイメージしたワークショップの試みとして

学年を越え子どもたちが集まり、地域の自然と文化、歴史、産業を「フィールドワーク」で体験し、自分たちの住んでいる場所の価値と問題を見つめ直し、これからどのような地域社会をどのようにつくっていけばよいかを「てつがく対話」で話し合う。対話を通し、見出した自らの関心・探究課題について、「図書館」で個々人が資料の探索を行う。

場所：気仙沼図書館および周辺地域、中央公民館など

主催：立教大学SFR共同研究プロジェクト

「立教大学文学部河野哲也研究室」

協力：気仙沼市+岡田新一設計事務所

第1回 気仙沼てつがく探検隊

開催日時：平成28年10月30日(日)

1. フィールドワーク：奇二正彦(生態学者) 他

①双眼鏡、ルーペ、プラスチックカップ、ジップロックを各自に配付。2班に分かれ1名が筆記係としてクリップボードのマップに気づいたことを記録。生態学の専門家であるファシリテーターが歩きながら、解説+問いかける。子どもたちは自分たちの五感でさまざまな発見を繰り返した



昔の家で一家の象徴だった釜を守る釜神様の由来、制作工程を伺った



2. てつがく対話：河野哲也、学生他

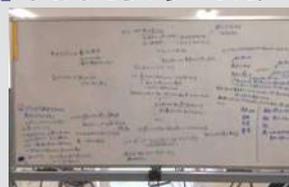
①立教大学ビデオ教材をもとに趣旨・進め方を説明 ②椅子取りゲームにて座る席を決定 ③毛糸を巻きながら自己紹介 ④ファシリテーターが毛糸の芯を抜き束ねてコミュニケーションボールを完成 ⑤そのボールを持った人が喋る手順でスタート。

子ども7名に、ファシリテーターを含め大人8名を加え議論しあう。まず、本日のフィールドワークを通して気づいたことの発表。次に議論したいテーマをみんなで決定した。→「**どうしたら身近なものに気づくようになる?**」



テーマに沿って議論を進めているうちに、「**身近にある**」と「**身近に感じる**」とは違うことに、みな気づかされた。例えば、**家族や友達、電車は「身近に感じる」が、「海」や「船」は身近にあっても「身近に感じない」**子どもたちが多かった。

それぞれに問題意識を高めて終了した。



3. 図書館にて本をさがす：図書館長他

関心を深めた対象や課題を学べる本を探す。図書館の活用の仕方を改めて体験。終了後アンケート用紙に感想を書いてもらい解散。全員、次回も参加したいとの回答だった。



第2回 気仙沼てつがく探検隊 平成29年3月19日(日)

1. フィールドワーク：「舞根森里海研究所」 牡蠣養殖筏→対岸の生き物→天然記念物「九九鳴き浜」→まとめの学習



2. てつがく対話：選ばれたテーマは、「**自然を感じるって、どういうことか?**」



3. 図書館で本を探す：関心を深めた対象や課題を学べる本を探す。図書館の活用の仕方を改めて体験。



第3回 気仙沼てつがく探検隊 平成29年7月22日(土)~23日(日)

1. 図書館の案内



2. フィールドワーク 旧月立小学校下を流れる八瀬川にて生き物観察



3. てつがく対話：「**自然と人の手が加わったものの違いは?」「時間を短く感じる」「長く感じる」とでは何が違う?**」



第4回 気仙沼てつがく探検隊 平成30年2月25日(日)

1. フィールドワーク 大川→気仙沼公園→新施設



2. 新施設見学・図書のはなし



3. てつがく対話 昼食後、どこで「対話」を続けたいかを話し合う。気仙沼のかたちのテーブルに決定。テーマは「**なぜみんな木の棒が好きなんだ?**」



開館1年の記録から：**活動・イベントの多様性**（図書館サービスの貸出・返却・レファレンス以外）

多様性は、さまざまな“幅広さ”に起因する ← ①年齢層 ②ジャンル ③ツール・ソース ④季節 ⑤空間 …

●おはなし会 ●実験工作教室 ●企画行事 ●体験学習・見学 ●ボランティア育成 ●読書活動支援
●0歳児あそび ●1.2歳児あそび ●児童あそび ●パパママ向け ●誕生日会 ●若草クラブ

2018年									2019年		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
●●●●● ●●● ●●●●●	●●●●● ●●●●● ●●●●● ●●●●● ●●●●●	●●●●● ●●●●● ●●●●● ●●●●● ●●●●● ●●●●● ●●●●● ●●●●● ●●●●● ●●●●●									

<図書館主体>

おはなし会：
おはなし広場
おはなしタイム
おはなしたまご
おりがみあそび
納涼おぼけ話会
ジョナサン&ディランと英語で遊ぼう

実験工作教室・工作教室：
『めでたいカードをつくろう』
こども理科実験教室
2018TOHOKU
出前工作教室
天旗をつくろう
作って遊ぼう！プロペラ付き
ペットボトルカー
ひつじのリースづくり
作って遊ぼう！ブラコップヘリ
スチロールカッターを作ろう

企画行事：
こどもとしゃかんコンサート
スイセンワークショップ
心カフェ（ここカフェ）施設案内
図書館バックを作ろう
ピアノコンサート
絵本や紙芝居の読み方「基礎・基本」
レファレンス探検隊
てつがく探検隊
はじめての囲碁教室
まちの産業を知る No.3 双葉印刷機
「こども名刺をつくろう！」
沼のハナヨメが語る 気仙沼のほぼ日の7年
しめ縄ワークショップ
としゃかんおみくじ
児童工作手芸展
みんなで絵本をつくろう
気仙沼サポートセンター就労支援セミナー「私も相手も大切にできる会話術」

職場体験：
向洋高校2年生インターンシップ
条南中学校・新月中学校・鹿折中学校・松岩中学校・気仙沼中学校・大島中学校・階上中学校（2年生）

読書活動支援：
気仙沼市図書館担当者会議
新月保育所出前おはなし会
文章サロン

施設体験：
けやき教室
転入奥様のための気仙沼講座
仙台にもっと図書館をつくる会
面瀬学童保育センター
一関市立花泉図書館
愛耕幼稚園
気仙沼・津谷・階上・九条・大島・鹿折小学校（2年生）

<児童センター主体>

あそびイベント：
ぴよぴよあそび（0歳児）
とことこあそび（1.2歳児）
児童あそびの日
誕生日会

若草（母親）クラブ：
「たんたん」の人形劇
いけ花
トトロ
手作りサークル

企画行事：
マンカラ・フォーティーワンで遊ぼう！
世界にひとつだけの「磁石」を作ろう！
ダンボール迷路で遊ぼう！
バルーンたかしくんのアートバルーン
大友剛 音楽と絵本のライブ
助産師さんのハッピーアドバイス
おやこフェス
動いて遊ぼう！ミニスポーツ大会

企画行事：
絵本作家の講演とワークショップ
親子ブラッシング教室
マンカラで遊んでみよう
ポケモンカーがやってくる
法政大学生と遊ぼう
あきらちゃん&ジャンプくん あそびうたコンサート
風船バレーボールをしよう
小中校生との交流いも煮会
コロコロピー玉作り
クリスマス飾りをつくろう
ハッピークリスマス会
るもい応援じゃがいもでカレーを食べよう
あそびにコンビニ in 気仙沼
てつがく対話 子育てのことをみんなでゆっくり語り合おう
みやぎから木のおもちゃがやってくる！
ワッフルを作ろう
オリジナルプラバンをつくろう
きろくにチャレンジ

開館1年の記録から：活動・イベント事例－1

例えば、「実験工作教室」は、これまで“児童センター”単独では開催できなかった企画。

“図書館”の講師を呼べるネットワーク、豊富な本、その案内力があって、継続開催が可能となった。



おはなしたまご：毎月2回（おはなし会）
／終了後、おすすめの絵本を参加者に紹介



実験工作教室「宇宙ってなんだろう」：2019.6.2



ひつじのリースづくり：2018.10.7 / マツボックリを活用したリースをつくる



納涼おばけ話会：2018.8.9 / 小学生から中学生を対象にした夏休み人気企画。123人参加。



父の日：おとうさんおはなし会：
2019.6.16 / おはなし広場スペシャル。父の日に「お父さんのかっこいい姿を子どもたちに見せてみませんか」とボランティアを募る。お父さんが読み聞かせに挑戦



おりがみあそび：（毎月1回）小学高学年や中学生の参加が多い



図書館バック作り：2018・6.23～24 / 連続3回開催



天旗をつくろう：2018.7.28 / 手づくり凧を、隣の小学校の校庭にて飛ばして遊ぶ

開館1年の記録から：活動・イベント事例－2

被災前の図書館でも親子連れの利用はあったが、児童センターと一緒に
になったことで、3世代揃っての来館家族が増えた。

それまで児童センターに馴染みのなかった大人が、児童センターの活
動に触れることによって、子どもへの関心や理解を深める効果を実感
している。図書館と児童センターの協働企画も多彩になってきた。



とことこあそび：1,2歳児対象／月1回、ぴよぴよとの合同開催の会もある



ぴよぴよあそび：0歳児対象／月1回企画を凝らして開催。右下は「ゆらゆらであそぼう」：2018.10.24



あつまれじどうかんっ子「あきらちゃん&ジャンプくんあそびうたコンサート」：2018.9.21



012シアター（とことこ、ぴよぴよ合同企画）：2018.9.5／仙台で活躍中の「おはようシアター」と一緒にあそぶ



絵本作家の講演とワークショップ（図書館＋児童センター協同企画）：2018.6.30



図書館との融合効果で児童センターの中高生利用は拡大、他校に友達ができる場にもなっている



児童あそびの日：小学生対象／月1～2回
上「法政大学生とあそぼう」2018.8.4～5／大学生と一緒に、手づくりの防災かるたなどであそぶ定期会
下「小中学生との交流いも煮会」2018.10.6／母親クラブとの共催。世代間交流事業の多様な催しの後、みんな一緒にいも煮会で舌鼓を打つ



ミニマルシェ：2019.6.9／「野菜づくりのコツ講座」に合わせて森のひろばをメイン会場に開催。協力：障害者地域活動支援センター「働希舎かもみ〜」